

## 2. 老人の家庭生活と意見について（その2）

### 隠居慣行地の実態

福島大学芸 岡村 益

1. 福島県下阿武隈山系の隠居慣行地における農家の隠居老人の家庭生活と意見の実態を調査し、前年発表した県内各地区の老人の場合と比較する。隠居慣行はこの地域が日本の北限とされていることに鑑み、慣行存続の経済的基盤及びそれにもとづくであろう老人の意見の特徴等を明らかにすることを目的とする。

2. 調査地田村郡都路村及び石川郡平田村の实地踏査、面接聴取により隠居慣行の状況即ち隠居当時における老若両世代の年令、隠居の理由及び動機、隠居分の田畑及び現金の処理、隠居後の交際や子女養育の責任等を捉える一方、隠居家における衣食住の家庭生活と生活意見を調査し質的な分析を試みた。

3. 老人とは社会学的な意味においては中心的な役割から退いた人であるとされる。家長権及び主婦権の譲渡である隠居行為は、明確な役割分担の変化であり、その内容及び経済的事情を明らかにし得た。ここでも老人は体力に応じた労働に従事して居り、決して楽な依存生活ではない。田畑の分割については老人の地位従って発言権の強さに程度の差がみられ、それはまた適応の態度と対応している。県内他地区と異なる点としては、楽しみ心配事等に子供への配慮が相対的に少なく、当面の問題である自分の経済や労働力に対する関心が強く示されていた。